



RI 第 2 6 1 0 地区 井波庄川ロータリークラブ会報

2008-09 年度 No.31 3 月 4 日発行

事務局 〒932-0211 富山県砺波市庄川町示野 121 リプロ内

TEL&FAX 0763-82-4318、inashorc@athena.ocn.ne.jp

2008-09 年度 会長 小西 勝、幹事 高瀬 顕正

2008-09 年度 RI テーマ



「夢をかたちに」

(李東建会長)

①例 会 記 録(3RC 合同例会・懇親会)

②シリーズ「ロータリーよ どこへ行く」Ⅷ



1462 回例会

平成 21 年 2 月 23 日(月) ニチマ倶楽部「ザ・ホール」

1. 点鐘 小西会長
2. ソング「奉仕の理想」
3. 会長の時間…「今回の合同例会、ザホールでの最後の催しになるかもしれません。記念事業については、本日午後実行委員 8 名で、看板の設置場所の候補地を見て、ほぼ決定しました。後はデザイン等を決めること、敷地(関電)との交渉もあり、1 ヶ月ほどかかることもあり、すぐ発注したいです。新聞によると、小矢部中 RC が 35 周年を迎え、滝の荘で記念式典を挙行されたそうです。第 4 分区に声掛けて 70 名ほどの会でした。記念事業はラオスの小 1 の 5 人の子供を 10 年

間教育援助を行うというものです。アカデミー外国語映画賞で、富山県出身の滝田洋二郎監督の「おくりびと」がオスカーを獲得しました。これは、富山市の作家、青木新門さんの「納棺夫日記」が題材となったもので、県民の一人として大変嬉しい事です。」

4. 幹事報告…「3 月 8 日 IM は、庄川 12:30、井波は 12:35 出発予定です。」
5. 委員会報告…①出席委員長(代理: 会員 24 名中 17 名出席、出席免除者 7 名あり内 4 名出席、調整後、21 名中 17 名出席で、80.95%。)
6. ニコニコ BOX(高瀬幹事: 本日 7 名 16,000 円)
小西会長: 久しぶりに多くの会員の参加があり、嬉しい。
助田会員: 長い間欠席で、お詫びします。
河合会員: いろいろと周りの皆様に感謝いたします。

上田会員：砺波 RC の合同例会が楽しみです。

三谷会員：本日、看板の設置場所見てきました。

高瀬会員：出席率が良く、幸いです。

山本会員：3 RC 合同例会で、久しぶりにザホールにきました。無くなると思うと、いままでの思い出がよみがえります。記念誌の原稿を宜しく願いいたします。

(2 月計 26,000 円：年度累計 296,000 円)

3 RC 合同懇親会

各クラブの例会後、合同懇親会が始まりました。各自、くじ引きで事前に振り分けられたテーブルにつき、砺波、南砺 RC の同席のロータリアンと友情を深めました。

サプライズ・アトラクションは、砺波 RC の米原会員のドラム、稲垣会員の歌（英語バージョン）でした。

その様子を写真で紹介します。



市堰 砺波 RC 会長の挨拶



稲垣会員の甘い歌声と米原会員の見事なドラム

宴席は、和やかなうちに終焉になり、閉めのあいさつは、小西勝会長がされました。創立 30 周年記念式典や当日参加の女性会員の紹介がありました。最後は、「手に手 つないで」の合唱で、閉会となりました。



【編集後記】 この 3 RC の例会の様子は、HP に画像をアップしますので、ご覧下さい。

(山本武夫)

シリーズⅧ 『見て見ぬふり』

アメリカ低所得者向け住宅融資「サブプライムローン」の巨額の焦げ付きに端を発した金融危機は、大手証券リーマン・ブラザーズの破綻を境として全世界に拡大し、「大恐慌以来」といわれる程の危機への坂道を転落して行った。その結果、国際社会はまさに「百年に一度の世界同時不況」に突入し、経営破綻、減産、人員削減への急速な広がりには止まることをしらない。

わが国の経済危機は非正規労働者のリストラから始まった。失職者の数は27万人とも言われ、今年中にはその数が100万人にも達すると予想されている。ILOの推計では、09年の世界の失業者数は2億3千万人にも達するであろうといわれている。

さらに経営破綻、減産、円高株安、冷え込み消費、賃金カットなど、不況の出口は全く見えていない。全治3年間ともささやかれるこのようなご時世に、ロータリーなんかに構っている場合か、と思われた会員も少なからず居られたことであろう。

このような折もあり、1月19日の地方紙にロータリーの一頁全面広告が掲載された。「ロータリーは人類のために活動します」の大見出しに、ポリオ撲滅や国際交流活動の写真紹介、そしてその下に「今日、地区66番目の新クラブ『富山大手町ロータリークラブ』の創立総会が開かれます」と書かれていた。誰が見ても、新クラブ設立のための広告でないことは、

はっきりわかる。一体これは何のための広告だったのだろうか。

ひとつ思い当たるのは、昨年10月8日「世界ライオンズ奉仕デー」に出された同じ一頁の全面広告である。そのスローガンは「人は、人のために」であり、奉仕活動の紹介写真もロータリーと殆ど同じで、ライオンズクラブの概要、歴史、地区環境憲章の簡潔な説明をされているものだった。

最近では、以前ほどわれわれの間でライオンズについて語られる事が少なくなったような気がする。とてもライオンズには太刀打ちしないと、尾っぽを下げて降参したのかと思っていたら、そうでもないらしい。

今回の新聞広告にしても、どう考えても約3ヶ月前のライオンズを意識したものとは思えてならない。もしそうだとすればそれは子供じみた意地の張り合いであり、大人のすることではない。

職や居場所を失った労働者の「派遣村」が全国に広がり、この先の生活に不安をもつ多くの国民の気持ちをよそに、「ロータリーは人類のために活動します」と大声で叫んで、一体何人の県民がこれに賛同し、共感を得られると思っているのだろうか。

まわりの空気が読めないことをKYという。政権が崩壊するのも、このKY体質が原因だという。ロータリーが崩壊しないために最も必要ことは、相手の立場を理解しようとする広い心くばりであろう。